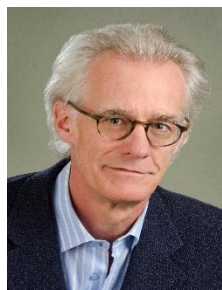


【登壇者略歴】

講演者



ステファン・ハガード

カリフォルニア大学サンディエゴ校 グローバル政策戦略学部 教授

主な著書に『Pathways from the Periphery: The Newly Industrializing Countries in the International System』(1990)、『The Political Economy of the Asian Financial Crisis』(2000)、『Developmental States』(2018)。民主化、不平等、社会政策に関するロバート・カウフマンとの共同研究には、『The Political Economy of Democratic Transitions』Princeton University Press (1995)、『Democracy, Development and Welfare States: Latin America, East Asia, Eastern Europe』Princeton (2008)、『Dictators and Democrats: Masses, Elites and Regime Change』Princeton (2016)、『Backsliding: Democratic Regress in the Contemporary World』Cambridge (2020)がある。マーカス・ノーランドとの北朝鮮に関する研究には、『Famine in North Korea』(2007)、『Witness to Transformation: Refugee Insights into North Korea』(2011)、『Hard Target: Sanctions, Inducements and the Case of North Korea』(2017)がある。現在は、権威主義体制が国際機関に及ぼす影響を中心に研究。

討論者



渡辺 紫乃

上智大学 総合グローバル学部 教授

東京大学経済学部卒業、タフツ大学フレッチャータウン法律外交大学院修士課程、ヴァージニア大学大学院博士課程修了、Ph.D.取得。北京大学国際関係学院留学、日本国際問題研究所研究員、埼玉大学教養学部准教授、上智大学総合グローバル学部准教授、ジョージワシントン大学シグナルセンター客員研究員(フルブライト研究員)などを歴任。主に中国の政治外交と国際開発金融を研究。

司会



佐橋 亮

東京大学 東洋文化研究所 准教授

専攻は国際政治学、特に東アジアの国際関係。国際基督教大学卒。東京大学大学院博士課程修了、博士(法学)。オーストラリア国立大学博士研究員、スタンフォード大学客員准教授、神奈川大学教授を経て2019年より現職、東京大学未来ビジョン研究センター准教授(兼務)。土地等利用状況審議会委員、科学技術外交推進会議委員。現在は経済産業研究所ファカルティフェロー、日本経済団体連合会 21 世紀政策研究所客員研究委員、日本国際交流センター客員研究員等を兼ねる。これまで、神奈川大学教授、スタンフォード大学アジア太平洋研究センター客員准教授、ウッドロー・ウィルソン国際学術センター・ジャパンスカラー等を歴任。

開会挨拶



高原 明生

東京大学 法学政治学研究科 教授/SSU ユニット長

専攻は現代中国の政治、東アジアの国際関係。東京大学法学部卒業、サセックス大学で博士号を取得。在香港日本総領事館、在中国大使館、ハーバード大学、北京大学などで研究員として従事。アジア政経学会会長、新日中友好 21 世紀委員会・事務局長などを歴任。桜美林大学助教授と立教大学教授を経て現職。本年 4 月より国際協力機構緒方貞子平和開発研究所シニア・リサーチ・アドバイザーを兼任。